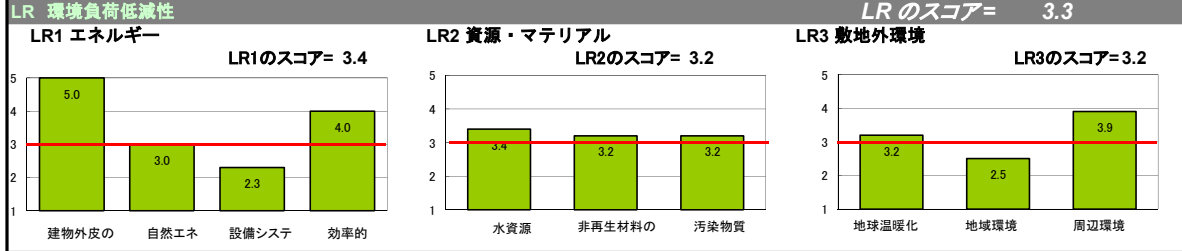
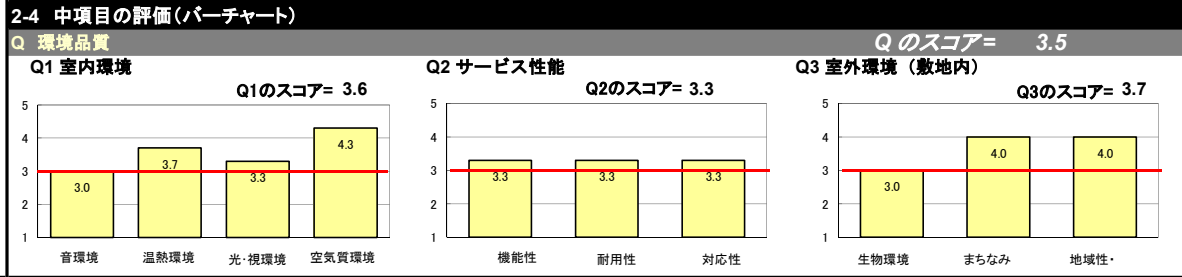
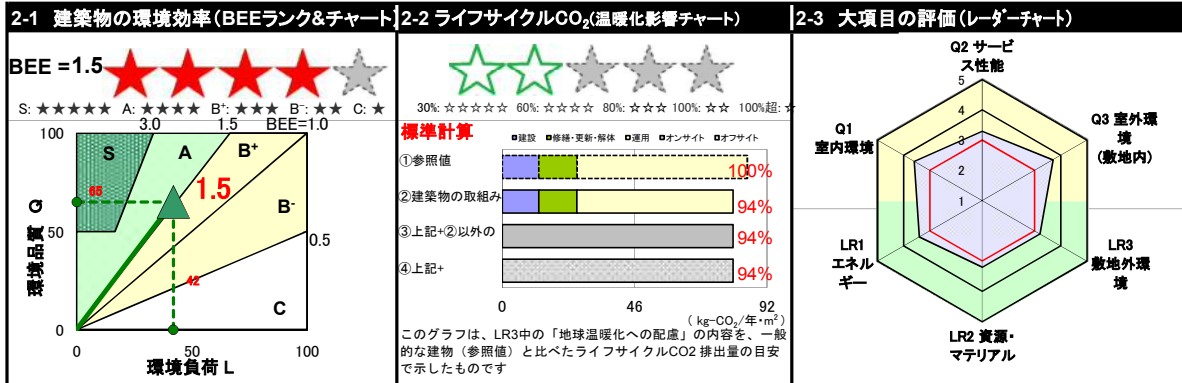


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新小牧市立図書館	階数	地下1階地上4階
建設地	愛知県小牧市中央一丁目234番地	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	800 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	飲食店、集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年3月1日
敷地面積	3,803 m ²	作成者	村瀬 慶彦
建築面積	2,711 m ²	確認日	2019年3月15日
延床面積	8,662 m ²	確認者	村瀬 慶彦



3 重点項目

<p>①地球温暖化への配慮</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">50.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">12.5 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<p>④地域材の活用</p> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
Q 建築物の環境品質														3.5
Q1 室内環境														3.6
1 音環境														
1.1 室内騒音レベル														3.0
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														3.0
2 界壁遮音性能														3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														-
1.3 吸音														3.0
2 温熱環境														
2.1 室温制御														3.7
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3 ゾーン別制御性														5.0
2.2 湿度制御														5.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														
3.1 昼光利用														3.3
1 昼光率														4.1
2 方位別開口														5.0
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														3.0
1 昼光制御														3.0
3.3 照度														3.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														
4.1 発生源対策														4.3
1 化学汚染物質														5.0
4.2 換気														5.0
1 換気量														3.3
2 自然換気性能														4.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														3.0
1 CO ₂ の監視														4.0
2 喫煙の制御														3.0
Q2 サービス性能														
1 機能性														3.3
1.1 機能性・使いやすさ														3.3
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														3.7
1 広さ感・景観 (天井高)														1.0
2 リフレッシュスペース														5.0
3 内装計画														4.0
1.3 維持管理														3.5
1 維持管理に配慮した設計														4.0
2 維持管理用機能の確保														3.0
2 耐用性・信頼性														3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.3
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.8
2 免震・制震・制振性能														4.0
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0
1 躯体材料の耐用年数														2.7
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														2.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0
2.4 信頼性														3.4
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														4.0
3 電気設備														2.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														3.0

3 対応性・更新性				3.3	0.29				3.3	
3.1 空間のゆとり		②	壁長さ比率 0.21	3.8	0.31					
1 階高のゆとり				3.0	0.18					
2 空間の形状・自由さ				4.0	0.82					
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31					
3.3 設備の更新性				3.2	0.38					
1 空調配管の更新性				2.0	0.17					
2 給排水管の更新性		3.0	0.17							
3 電気配線の更新性		5.0	0.11							
4 通信配線の更新性		5.0	0.11							
5 設備機器の更新性		3.0	0.22							
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.22							
ケーブルラックおよびOA707-内配線 EPS(ケーブルラック) OA707-				5.0	0.11					
				3.0	0.22					
				3.0	0.22					
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.33				3.7	
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30				3.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	屋上緑化	4.0	0.40				4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30				4.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	公開空地との一体区間の整備	5.0	0.50					
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50					
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3	
LR1 エネルギー					0.40				3.4	
1 建物外皮の熱負荷抑制			ビロティによる外皮負荷の低減	5.0	0.22				5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.22				3.0	
3 設備システムの高効率化				2.3	0.34				2.3	
4 効率的運用				4.0	0.23				4.0	
集合住宅以外の評価				4.0	1.00					
4.1 モニタリング			中央監視装置による監視	4.0	0.50					
4.2 運用管理体制			管理マニュアルの作成	4.0	0.50					
集合住宅の評価				-	-					
4.1 モニタリング				-	-					
4.2 運用管理体制				-	-					
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.2	
1 水資源保護				3.4	0.15				3.4	
1.1 節水			節水器具の採用	4.0	0.40					
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60					
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67					
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33					
2 非再生性資源の使用量削減				3.2	0.63				3.2	
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07					
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-	3.0	0.21					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			再生クラヤランを外構基礎部分で使用	3.0	0.21					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-					
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		独自	軽鉄下地、打込み配管なし	4.0	0.25					
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.2	0.22				3.2	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32					
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68					
1 消火剤			N2ガスの使用消火	4.0	0.33					
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33					
3 冷媒				3.0	0.33					
LR3 敷地外環境					0.30				3.2	
1 地球温暖化への配慮		①	低Nox機器の採用	3.2	0.33				3.2	
2 地域環境への配慮				2.5	0.33				2.5	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25					
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25					
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25					
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 交通負荷抑制		独自	駐輪場、駐車場の確保	4.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮				3.9	0.33				3.9	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				5.0	0.40					
1 騒音		独自	防音壁による騒音低減	5.0	1.00					
2 振動		独自		-	-					
3 悪臭				-	-					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40					
1 風害の抑制				3.0	0.70					
2 砂塵の抑制				-	-					
3 日照障害の抑制				3.0	0.30					
3.3 光害の抑制				3.7	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			照明器具の適切な配置	4.0	0.70					
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30					

重点項目スコアシート

新小牧市立図書館

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.10	外構緑化:50.3%/建物緑化:12.5%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>地域住民が利用できる公開空地と一体となる整備する計画とした。 空地には高木等に保存に努め、屋上緑化による植栽を行い、周辺環境に配慮した。 また、高効率照明や節水型の水洗器具を採用し、省エネルギーで環境に配慮した計画とした。</p>
Q1 室内環境	<p>防音対策として2重サッシを採用した。 また2重サッシを採用することで熱負荷対策にも寄与した。 仕上材にはシックハウス対策としてF☆☆☆☆建材を使用する計画とした。</p>
Q2 サービス性能	<p>外装仕上材には低汚染性、高耐久性に優れた「低汚染型塗料」を採用し、メンテナンス性に配慮した計画とした。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>調和の取れた屋外環境環境を確保した。</p>
LR1 エネルギー	<p>LED照明を積極的に採用する計画とした。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水型WC,節水型水洗機器を採用する計画とした。</p>
LR3 敷地外環境	<p>周辺環境に適合する色を採用した。 また機械設置場所の周囲には目隠しパネルを設置し、景観に配慮した計画とした。</p>
その他	